



一 橋 大 学
大学院国際・公共政策教育部
(国際・公共政策大学院)
《専門職学位課程》

2022(令和4)年度 入学試験説明会
2021年6月23日

School of International and Public Policy,
Hitotsubashi University

一橋大学と国際・公共政策大学院(IPP)の歴史

森有礼が、東京都内に商法講習所として開校

一ツ橋に移転(現在の千代田キャンパス)

東京高等商業学校に改称、4年制を開設

東京商科大学に昇格

関東大震災により、図書館を除く校舎が倒壊

東京都心から約25キロ西の国立に移転

一橋大学に改称

国際・公共政策大学院設立

1875年
(明治8年)

1885年

1902年

1920年
1923年

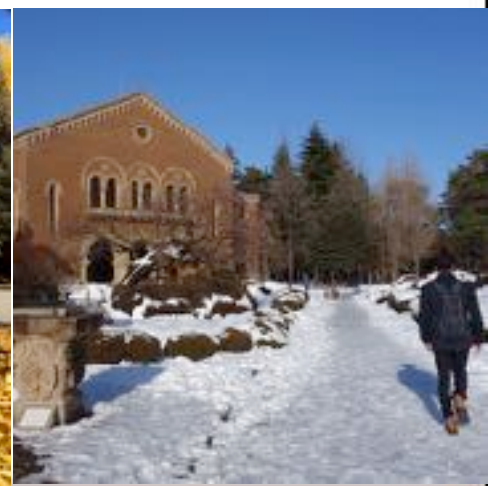
1930年

1949年

2005年

一橋大学国際・公共政策大学院の特色

1. 定員55名、専任教員18名による**少人数教育**
2. **政府・民間との連携**に基づく教育・研究の充実
3. 新卒・社会人・留学生が混在する**多様で国際色豊かな**学生構成
4. 美しい自然と落ち着きのあるキャンパス ...



国際・公共政策大学院の理念

＜専門職大学院としての4つの基本理念＞

専門性

先端研究の基礎に立つ
高度専門教育

横断的・複合的

横断的分析による
複合的視点の育成

多角性・実践性

政策分析における
多角性と実践性の重視

アジアそして世界へ

アジア・太平洋地域の拠
点として世界に発信

⇒政策に関する真のプロフェッショナルの育成

国際・公共政策大学院の構成

専攻	国際・公共政策専攻			
コース	国際・行政コース		公共経済コース	
プログラム	公共法政	グローバル・ガバナンス	公共経済	アジア公共政策
修了所要単位	44単位		44単位	
取得できる学位	国際・行政修士(専門職) Master of International and Administrative Policy		公共経済修士(専門職) Master of Public Policy (Public Economics)	
入学定員	修業年限	定員と対象		定員と対象
	2年課程	30名	一般、社会人、留学生	15名 社会人
	1年課程	10名	社会人	

カリキュラム

インターンシップ

ワークショップ

コンサルティング
プロジェクト

＜プロフェッショナル・トレーニング＞
表現力やコミュニケーション能力の向上をめざす

事例研究：事例を分析する目を養う

応用科目：専門性の高い問題に取り組む

コア科目：政策の基本的な問題に取り組む

基礎科目：基礎となる考え方を学ぶ

＜アカデミック・トレーニング＞
理論的・概念的な枠組みの修得・応用を目指す

4つのプログラムのご紹介

- ・ 公共法政
- ・ グローバル・ガバナンス
- ・ 公共経済
- ・ アジア公共政策



公共法政 プログラム Public Law Program

公共法政プログラムが目指していること ...

公共法政プログラム

(1)プログラムの特色

目標:

- 公法、政治に関する深い理解に基づいて公共政策を分析・提言する能力を身につける。

特色:

- 必修科目が少ない。
- ニーズに即した多様な講義科目が提供されている。
Ex. 経営学修士コースの科目、法科大学院との合併講義科目
- ワークショップ、ゼミでの指導により、研究論文の作成能力が養われる。

活躍が期待される職場:

国、地方公共団体、民間企業等。

公共法政プログラム

(2) 2年コースの流れ

1年目春・夏学期

行政法基礎論
行政法概論
行政学Ⅰ・基礎
公共法政ワークショップⅠ
など



夏期集中
インターンシップ



1年目秋・冬学期

憲法政策
法と経済学
租税論Ⅰ
公共法政ワークショップⅡ
など

2年目春・夏学期

公共法政ワークショップⅢ
行政学Ⅱ・応用
政策法務研究
など



夏期集中
インターンシップ



2年目秋・冬学期

公共法政ワークショップⅣ
立法学
租税論Ⅱ
など

履修の目安 44単位以上

- 1年目24単位以上 2年目20単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位には含まれない。

公共法政プログラム

(3) 1年コースの流れ

春・夏学期

行政法基礎論
行政法概論
行政学Ⅰ・基礎
国際法基礎論
社会保障論Ⅰ
政策法務研究
公共法政ワークショップⅠ
1年コース特別ワークショップⅠ
特別研究指導
など



夏期集中
インターンシップ



秋・冬学期

憲法政策
租税論Ⅰ
立法学
政策法務研究
法と経済学
租税論Ⅱ
公共法政ワークショップⅡ
1年コース特別ワークショップⅡ
特別研究指導
など

履修の目安 44単位以上

- 春・夏学期22単位以上、秋・冬学期22単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位に含まれる。

グローバル・ガバナンス プログラム

Global Governance Program

グローバル・ガバナンスとは何か？

グローバル・ガバナンス プログラム

(1) プログラムの特色

- 目標:
 - 国際関係論、国際法、国際関係史に関する専門的な知識をもとに、国際社会における諸問題に対して、具体的な政策を提言する能力を身につけることを目指す。
- 特色
 - 必修科目が比較的少なく、各人の興味に基づき自由に科目選択ができる。
 - 英語での科目が豊富に提供されている。
 - GGワークショップにおけるきめ細かな指導により、各人が選んだテーマに関する論文の作成能力が養われる。
- 活躍が期待される職場:
 - 官公庁、国際機関、国際NGO、シンクタンク等の民間企業。

グローバル・ガバナンス プログラム

(2) 2年コースの流れ

1年目春・夏学期

International Security Policy
国際法基礎論
政策分析の技法
English Writing for Researchers
比較政治外交論
など

2年目春・夏学期

Regional Studies
EU論
ディベート(国際交渉)
GGワークショップ I など

⇒ 夏期集中
インターンシップ ⇒

⇒ 夏期集中
インターンシップ ⇒

1年目秋・冬学期

国際政治学基礎論
Japan's Foreign Policy Making
History of Cold War
地球環境と開発援助
Presentation for English
Interaction など

2年目秋・冬学期

Community Interests and
International Law
NGO/NPO論
GGワークショップ II など

履修の目安 44単位以上

- 1年目24単位以上 2年目20単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位には含まれない。

グローバル・ガバナンス プログラム

(3) 1年コースの流れ

春・夏学期

International Security Policy
国際法基礎論
政策分析の技法
English Writing for Researchers
比較政治外交論
Regional Studies
EU論
ディベート(国際交渉)
GGワークショップ I
など



夏期集中
インターンシップ



秋・冬学期

国際政治学基礎論
Japan's Foreign Policy Making
地球環境と開発援助
Presentation for English
Interaction
Community Interests and
International Law
NGO/NPO論
GGワークショップ II
など

履修の目安 44単位以上

- 春・夏学期22単位以上 秋・冬学期22単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位には含まれる。

公共経済 プログラム

Public Economics Program

公共経済プログラムが目指していること ...

公共経済プログラム

(1)プログラムの特色

- 目標:
 - 経済学的に考え、分析する能力を身につけ、政策分析・政策提案を行えるようになる。
- 特色
 - 経済学を(初学者でも)基礎から徹底的に学べる。
 - 必修科目が多い(大変)。
 - 2年コースの学生は、コンサルティング・プロジェクト(必修)を通じて、実践的な政策分析・提案の能力を磨く。
 - 1年コースの学生は、1年コース特別ワークショップ(必修)を通じて、問題意識を深めて、政策分析・提案につなげる。
- 活躍が期待される職場
 - シンクタンク、省庁、自治体、民間企業など

公共経済プログラム (2) 2年コースの流れ

(*のついた科目は必修科目)

1年目春・夏学期

*ミクロ経済分析(4単位)
*マクロ経済分析(4単位)
*計量経済分析(4単位)
*公共経済分析 I
公共政策セミナー I など

夏期集中

プロジェクト評価
応用計量経済分析 I
など

1年目秋・冬学期

*公共経済分析 II
*コンサルティング・プロジェクト指導 I
応用計量経済分析 II
租税論 I, II
公共政策セミナー II など

コンサルティング・プロジェクト

2年目春・夏学期

*コンサルティング・プロジェクト指導 II
社会保障論
公共政策セミナーIII など

夏期集中

医療と保健
など

2年目秋・冬学期

*公共経済ワークショップ
法と経済学
公共政策セミナーIV など

コンサルティング・プロジェクト...完成

リサーチ・ペーパー(or研究論文)執筆

履修の目安 44単位以上

- 1年目24単位以上 2年目20単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位には含まれない。

公共経済プログラム

(3) 1年コースの流れ

(*のついた科目は必修科目)

春・夏学期

- *経済学基礎論 I
- *経済統計分析入門
- *ミクロ経済分析
- *マクロ経済分析
- *公共経済分析 I
- 社会保障論
- 医療保険政策論
- 公共政策セミナー I, III
- *1年コース特別ワーク
- ショップI など



夏期集中

プロジェクト評価
応用計量経済分析 I
など



秋・冬学期

- *経済学基礎論 II
- *公共経済分析 II
- 租税論 I, II
- 地方財政論
- 法と経済学
- 金融論
- 医療経済政策論
- 公共政策セミナー II, IV
- *1年コース特別ワーク
- ショップII など

履修の目安 44単位以上

- 夏学期22単位以上 冬学期22単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位に含まれる。

アジア公共政策 プログラム

Asian Public Policy Program

アジア公共政策プログラムが目指していること ...



Asian Public Policy Program

(アジア公共政策プログラム) (1)

A two-year Master's Program taught entirely in English

- **Focus:** Economic theory and policy for policymakers
- **Target:** Professionals from Asia (but Japanese who want to study economics in English to become international public servants are welcome, too)
- **Mission:**
 - Train professionals
 - Share experience and views
 - Develop network
- **Campus:** Kunitachi Campus & Chiyoda Campus
(Near Takebashi Station)
- **Academic Year:** Starts in September



APPP (2) Course Description

A dedicated course structured for APPP students:

- Required Courses
 - Macroeconomics, Microeconomics, Econometrics, Economics of Public Sector
- Elective Courses
 - Fiscal Policy, Monetary and Financial Policy, Public Sector Policy
- Workshop on Current Topics (series of seminars on contemporary issues by policymakers, academics, etc.)
- Intensive courses taught by visiting lecturers from renowned schools (Harvard Kennedy School, Lee Kuan Yew School of Public Policy, Australian National University, Columbia School of International and Public Affairs).
- English Thesis Writing Tutorials
- Seminar Work (small class of around 8 students with an academic advisor)
- Master's Thesis (required)

APPP (3) Main Features

- Faculty members with rich policy-making and -implementation experiences (MoF, CAO, BoJ, IMF, World Bank, BIS, AMRO).
- A strong theoretical basis is combined with real-world practice.
- The city-center campus attracts a wide range of experts and practitioners as lecturers.
- Strong alumni network in Asia
- Kill two birds with one stone (economics and English) !
- Ranked high in international rankings.

交換留学について

Studying Abroad

学生交流協定に基づく交換留学の制度

- (1) ボッコーニ大学(イタリア)半年1名(全学協定)
公共政策、公共経済関係の英語での諸科目
- (2) マーストリヒト大学(オランダ)半年1名(部局間協定)
EU Studies に関する英語での諸科目
- (3) 中国人民大学(中国)半年1名(部局間協定)
公共政策の英語での諸科目
- (4) ザンクトガレン大学(スイス)半年2名(部局間協定)
公共経済、政治学等の社会科学に関する英語での諸科目
- (5) ケンブリッジ大学AMES(イギリス)半年1名(全学協定:IPPの留学希望者優先制度あり)
アジア・中東地域の社会科学に関する英語での諸科目
- (6) パリ第1パンテオンソルボンヌ大学(フランス)半年2名(部局間協定, 経済学研究科と合同)
ソルボンヌ経済学院で提供される英語での経済学関連科目
- (7) バルセロナ国際研究所(スペイン)半年2名(部局間協定)
国際関係や公共政策に関する英語での大学院教育の諸科目
- (8) ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)年間1~2名(部局間協定, 法学研究科と合同)
EU研究、国際関係の英語での諸科目 =ダブルディグリー協定=
 - 授業料相互不徴収
 - 語学要件: おおむねTOEFL iBT 80~100(留学先によって異なる)
 - 単位互換: 認定されれば、最大16単位まで可能
 - 奨学金: 25万円を限度に一橋大学基金から支給する制度あり

入試について

Entrance Examination

2022年度入学試験スケジュール(年2回(秋・春)開催)

4月入学。授業科目は、一部科目を除き、国立キャンパスにて、日本語で、かつ昼間に行われます。

● 秋季

募集区分	募集プログラム	試験形態	募集人員
一般選考	公共法政(PL) グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	PL: 書類選考(第1次) 小論文・面接試験(第2次)	30名程度 (うち社会人1年 コース10名)
		GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	
社会人特別選考	公共法政(PL) グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	PL: 書類選考(第1次) 小論文・面接試験(第2次)	
		GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	
外国人留学生特別選考	グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	

2022年度入学試験スケジュール(年2回(秋・春)開催)

4月入学。授業科目は、一部科目を除き、国立キャンパスにて、日本語で、かつ昼間に行われます。

● 春季

試験形態は変更の可能性があります。詳細は10~11月頃公開予定の募集要項を必ずご確認ください。

募集区分	募集プログラム	試験形態	募集人員
一般選考	グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	若干名
社会人特別選考	公共法政(PL) グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	PL: 書類選考(第1次) 小論文・面接試験(第2次)	
		GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	
外国人留学生特別選考	公共法政(PL) グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	全てのプログラム: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	

※2022年度春季募集の外国人留学生特別選考の日程は、例年より1か月早め、12月に選考を行う予定です。
春季募集について、海外在住の外国籍の方は外国人留学生特別選考にご出願ください。

入学試験（秋季：一般選考）

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンス プログラム、公共経済プログラム共通

● 選考方法

第1次試験（書類審査）：

研究計画書、成績表、TOEFL・TOEIC・IELTSのスコア、推薦書、エッセイ（グローバル・ガバナンスプログラムのみ）、その他参考資料等を審査

第2次試験（面接（共通）＋ 小論文（公共法政プログラムのみ））：

第1次試験合格者を対象に研究計画書等に基づく面接試験を行う
（公共法政プログラムでは、面接試験に加えて小論文を行う）

* グローバル・ガバナンス プログラムの海外在住の受験者、公共経済プログラムのすべての受験者の面接試験（第2次試験）はオンラインで実施されます。

入学試験（社会人特別選考）

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンス プログラム、公共経済プログラム共通

●「社会人」の定義

出願時点において、企業・官公庁等において2年以上の実務経験を有する者

● 1年コースと2年コース

修了所要単位数はどちらも44単位。1年コースは基礎学力があり、在学中に仕事や就職活動等の予定がなく、勉学中心の生活ができる環境にある人向き

● 選考方法

第1次選考（書類審査）:

研究計画書、実務上の経験および能力に関する報告書、推薦書（グローバル・ガバナンスプログラムのみ）、TOEFL・TOEIC・IELTS・検定試験等の参考資料を審査

第2次選考（面接（共通）＋小論文（公共法政プログラムのみ））:

第1次試験合格者を対象に研究計画書等に基づく面接試験を行う
（公共法政プログラムでは、面接試験に加えて小論文を行う）

* グローバル・ガバナンス プログラムの海外在住の受験者、公共経済プログラムのすべての受験者の面接試験（第2次試験）はオンラインで実施されます。

入学試験（外国人留学生特別選考）

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンス プログラム、公共経済プログラム共通

●「外国人留学生」の定義

出願時点において、日本滞在期間が2年以下の者

● 選考方法

第1次試験（書類審査）:

研究計画書、TOEFL・TOEIC・IELTSのスコア、日本語能力試験等のスコア、推薦書（2通）、その他参考資料を審査

第2次試験（面接（共通））:

第1次試験合格者を対象に研究計画書等に基づく面接試験を行う

※公共法政プログラムの外国人留学生特別選考は春季のみ募集を行います。

* グローバル・ガバナンス プログラムと公共法政プログラム（春季のみ）の海外在住の受験者、および公共経済プログラムのすべての受験者の面接試験（第2次試験）はオンラインで実施されます。

入学試験（研究計画書の書き方：秋季入学試験）

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンス プログラム、公共経済プログラム共通

● 研究計画書について

以下の3点についてまとめる

- ① これまでの勉強の成果や実務経験
- ② 入学後の研究テーマ
- ③ 大学院での研究を、修了後のキャリアへどう生かすか

字数

<一般>

- ・公共法政・グローバル・ガバナンス：3,000字程度
- ・公共経済：6,000字程度

<社会人特別選考> 6,000字程度

<外国人留学生特別選考>

- ・公共経済：日本語で3,000字程度
- ・グローバル・ガバナンス：日本語で3,000字程度、または英語で 2,000 words 程度

秋季入学試験日程等

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンス プログラム、公共経済プログラム共通

一般選抜

社会人特別選考

外国人留学生特別選考

出願期間	8/4(水) -8/20(金)
第1次試験 (書類審査) 合格発表	9/9(木)
第2次試験(面接 [+小論文※])	9/17(金)
合格発表	9/27(月)

出願期間	8/4(水) -8/20(金)
第1次試験 (書類審査) 合格発表	9/9(木)
第2次試験(面接 [+小論文※])	9/17(金)
合格発表	9/27(月)

出願期間	8/4(水) -8/20(金)
第1次試験 (書類審査) 合格発表	9/9(木)
第2次試験 (面接)	9/17(金)
合格発表	9/27(月)

※小論文試験は公共法政プログラムのみ実施

※小論文試験は公共法政プログラムのみ実施

募集人数: 一般選抜、社会人2年コース、外国人留学生特別選考を合わせて30人
社会人1年コース10人

出願方法: 書留郵便により出願書類を提出

入学試験（アジア公共政策プログラム）

- 募集人数
15名
 - 出願資格
主としてアジア諸国の官公庁・中央銀行での2年以上の勤務経験
 - 出願期間
<http://www.ipp.hit-u.ac.jp/appp/> を参照のこと。
 - 第1次試験（書類審査）
研究計画書、TOEFL/IELTS、推薦状、成績表に基づく審査
 - 第1次試験合格発表（一次試験合格者のみに第2次試験日程を連絡）
2022年5月上旬予定
 - 第2次試験（数学、英語の筆記テスト及び面接）
第1次合格発表後、適宜のタイミング
 - 最終合格発表
2022年5月下旬～6月予定
（申請する奨学金、二次試験日程により異なる）
- *アジア公共政策プログラム問合せ先：appp-admissions@ad.hit-u.ac.jp
- *アジア公共政策プログラムは9月入学

主体的に学ぶ Epilogue

インターンシップの履修について

I IPP授業科目「インターンシップⅠ」、「インターンシップⅡ」単位認定要件

- (1) 1週間(約40時間相当)以上の実習(1単位)、または2週間以上の実習(2単位)
- (2) 実習レポート及び実習終了(修了)証明書等の提出
- (3) 「IPPインターンシップ報告会」における成果発表

II インターンシップ受入先について

- (1) 官庁や地方自治体等(官公庁等が募集、各自、又は、大学を通じて申し込む)
- (2) 人事院主催公共政策大学院生インターンシップ
- (3) 民間企業等(各企業等が募集、各自で申し込む)

<その他>

- ・インターンシップへの助成制度あり。

インターンシップ等を行なう際に必要となる費用(交通費、宿泊費他)の一部助成
(国内活動:上限5万円、海外活動:上限25万円)

※ただし、当該年度の大学予算の都合による。

医療経済プログラムについて

- 国際・公共政策大学院の学生は、一橋大学大学院の修士課程および専門職学位課程に在籍する学生を対象とする**医療経済プログラム**に参加することが可能です。
- 修了要件を満たした学生には、修了時にプログラム修了証が授与されます。
- 詳細は、プログラムを運営している一橋大学社会科学高等研究院の医療政策・経済研究センターのWeb サイトをご覧ください。

➤ <http://health-economics.hias.hit-u.ac.jp/course/>

“医療現場における課題解決や官公庁等における政策形成など、医療関連のプロフェッショナルを目指す学生、また、医療・介護機関や製薬企業、医療機器メーカー、官公庁、自治体など、医療や社会保障の現場で働く社会人学生の方の参加を期待しています。”



HiAS Health

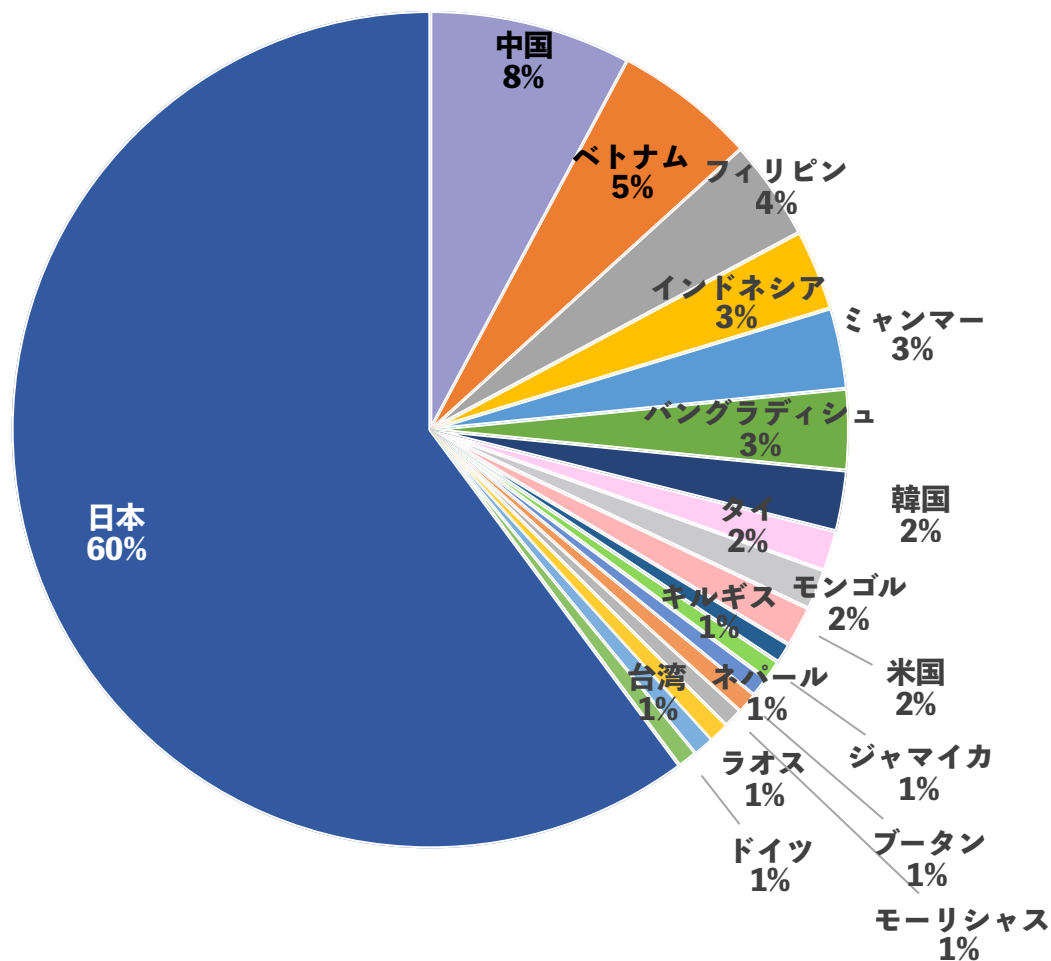
一橋大学社会科学高等研究院
医療政策・経済研究センター
Research Center for Health Policy and Economics

(参考) 在学生の出身国又は地域名(2021年4月)

出身地域別割合

国名	学生数	割合
中国	10	7.8%
ベトナム	7	5.5%
フィリピン	5	3.9%
インドネシア	4	3.1%
ミャンマー	4	3.1%
バングラディシュ	4	3.1%
韓国	3	2.3%
タイ	2	1.6%
モンゴル	2	1.6%
米国	2	1.6%
キルギス	1	0.8%
ジャマイカ	1	0.8%
ネパール	1	0.8%
ブータン	1	0.8%
モーリシャス	1	0.8%
ラオス	1	0.8%
台湾	1	0.8%
ドイツ	1	0.8%
日本	77	60.2%
合計	128	100%

外国人留学生割合	39.8%
----------	-------



「出身国に関わらず共通のフィールドで ディベートやディスカッションに臨んでいます」

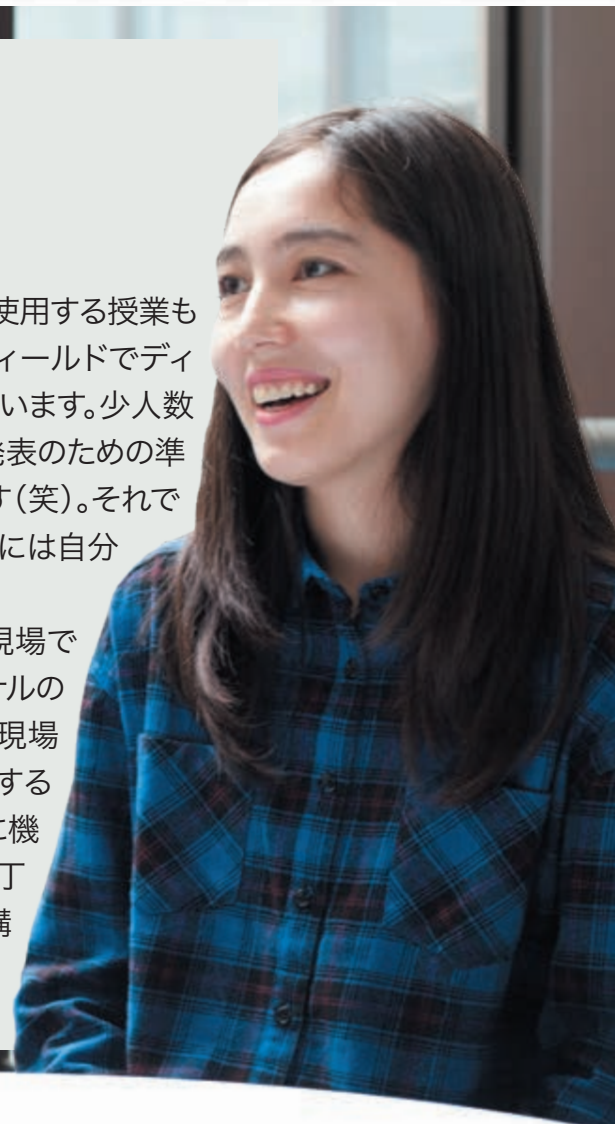
母国ウズベキスタンでは、大学の言語学部で日本語や日本の歴史について学びました。卒業後は英語や日本語の教師をしていましたが、国連などの国際機関での仕事に就きたいと考え、大学時代に留学経験のある日本で再び学ぼうと決意し、IPPに進学しました。

グローバル・ガバナンス・プログラムにおけるカリキュラムの特徴は、私のような国際関係の学問を専門にしてこなかった学生でも基礎的なレベルからスタートし、後半にはワークショップやインターンシップなどの高度なトレーニングプログラムを学ぶことができる、という間口の広さにあると感じています。

私が所属するクラスは16人ですが、外国からの留学生も多く、イタリア、中国、韓国、ベトナム、ラオ

ス、バングラデシュと多彩。英語を使用する授業も多く、出身国に関わらず共通のフィールドでディベートやディスカッションに臨んでいます。少人数教育ですので、あるときは課題の発表のための準備がたいへんだったこともあります(笑)。それでもやはり、少人数のほうが最終的には自分の力になると実感しています。

教えてくださる先生も、実際の現場で働いた経験のあるプロフェッショナルの方が多数。セオリーだけではなく、現場ではどのような問題・課題が発生するのか、積み上げた理論をどのように機能させていくのか、といったことを丁寧にレクチャーしてくれるので、講義の理解度が高まります。



グローバル・ガバナンス・プログラム(GG)
一般・2015年度入学

ソヂコワ・イロダさん

「院生同士の意見交換や先生からのフィードバックのおかげで、高いレベルでの双方向の学びが実現しています」

大学卒業後は法科大学院に進んで弁護士を目指していたのですが、「法律を使う側の弁護士よりも、法律や制度を作る国家公務員の道に進みたい」と考え、IPP(国際・公共政策大学院)に入学しました。

カリキュラムの特徴は、選択の自由度が高いこと。私は立法学、政策法務研究、行政学など、法律や行政系の講義を中心に選択していますが、論文を英語で書くスキルを養う「発信英語力」など、他の研究科の講義を受講することも可能です。また、クラスメイトには社会人の方が半数近くいるので、社会経験が豊富な方たちと交流できることにも魅力を感じています。

講義のスタイルも学部時代とはずいぶん違います。少人数教育なのでフィードバックが多い。ワークショップでは、私たちの発表に対して5～6人もの先生が指導してくれます。時には厳しい意見もいただくのですが、それを課題と捉えて再考することで最終的には研究の成果につながります。院生同士の意見交換や先生からのフィードバックのおかげで、高いレベルでの双方向の学びが実現しています。

卒業後は国家公務員の道に進むことが内定しました。ここで学んだ知見を土台に、理想を見据えながら、現場の様々な方たちの声にも耳を傾けながら実務に取り組みたいです。そして、できるだけ多くの人を幸せにできるような政策を作り上げていける行政官になりたいと思っています。

公共法政プログラム(PL)
一般・2014年度入学

新納 綾香さん

「公共学という観点で経済を捉えた経験がなかったので、基礎から学べたのは非常に有益でした」

国内の大学の英米学科に在籍していたときにダブルディグリー制度を利用してアメリカの大学に2年間留学し、経済学を学びました。当時、将来を考えたときに国家公務員として働きたいという結論に至ったのですが、国の仕事をするのであればやはり日本でしか学べないことを学びたいと思い、公共経済学のある大学院を志望。充実したカリキュラムと少人数教育が特徴のIPPを選びました。

カリキュラムでは、最初の1学期に基礎的な知識を学んだ後に、実践的な分野に取り組みます。私は留学時に経済学を学びましたが、公共学という観点で経済を捉えた経験がなかったので、基礎から学べたのは非常に有益でした。

IPPに入って最も魅力に感じているのが、先生と学生との距離が近いこと。授業中、気になったらす

ぐ手を挙げて質問することもできます。また、クラスメイトには社会人の方も多く在籍しており、グループワークに取り組んだ際にも経験豊富な各人の知見を合わせながら研究を進めていけるので、たいへん身になります。霞ヶ関の各省庁から学びにいらしている方も多く、実際にどのような政策の立案に関わってきたかというお話も聞けて、とても興味深いです。

現在は、日本の教育問題に関心があり、そこに経済学的な観点を加えた形での研究に取り組みたいと考えています。そうした分野の海外の研究にも触れるために、2年次の2学期目から留学プログラムを利用してイタリアに留学する予定です。



公共経済プログラム(PE)
一般・2015年度入学

加藤 麻早見さん

「世の中の動きに対して経済理論がどう紐付いているかが 明らかになる。たいへん興味深いです」

私は財務省に所属しており、IPPに入学する前に関わっていたのがODA（政府開発援助）の円借款プロジェクトでした。ODAの地域別割合は対アジアが6割以上を占めていますので、IPPのアジア公共政策プログラムなら関連も深く、自分の今後のキャリアにも生かせるのではないかと感じ、入学を決意しました。

現在は、経済学の基礎となるミクロ経済、マクロ経済、計量経済、公共経済学など、コアコースを中心に学んでいます。他にも、世界の時事問題について外部から講師を招いてレクチャーを受ける科目もあります。東京証券取引所の元代表取締役やNHKのアナウンサーなど、ジャンルを横断したプロフェッショナルの講話を聞けるの

が魅力です。

いちばん魅力を感じている科目は「セミナー」。時事問題についてグループで発表した後に参加者全員で討論を行います。さらに、先生からの解説で、世の中の動きに対して経済理論がどう紐付いているかが明らかになる。たいへん興味深いです。

クラスメイトは10カ国からの学生で18人。各国の公的セクターから来ている方がほとんどです。日本人は私一人だけで、クラスメイトと話してみると「日本の組織ではこうするが、海外ではこうする」など、文化の違いを感じられて興味深いです。アジア公共政策プログラムでは同級生はもちろん、上の学年の方、さらには卒業生の方ともつながりを持てます。将来的にはこうした人脈も仕事を進めていく上での大きな糧になると感じています。

アジア公共政策プログラム（APPP）
社会人2年コース・2015年度入学

渡邊 直朗さん

**国際色豊かな少人数教育だから
一人ひとりが真のプロフェッショナルになれる。**



政策のプロをめざしてみませんか？

一橋大学 国際・公共政策大学院
<https://www.ipp.hit-u.ac.jp>